

ふじみ衛生組合新ごみ処理施設建設ニュース

v o L 5 平成20年12月発行

ふじみ衛生組合（組織市：三鷹市・調布市）

組合では、新ごみ処理施設の建設について、周辺の皆様になお一層のご理解いただくため、『建設ニュース』を毎月1回発行することとし、今号で5号目の発行となりました。第1号の発行は、真夏の太陽がふりそそぐ8月でしたが、早いもので師走の時季を迎え、何かと気ぜわしさを感じる毎日です。組合では、来年の秋頃に「(仮称)地元協議会」を設置し、既存施設の解体工事から新施設の建設・運営に至る期間内の「主に公害の防止・監視など」について、協議させていただきます。設置に際しては、周辺の皆様のご理解とご協力をお願いします。

今号では、新施設稼働による搬入・搬出車両の増加と車両動線についてご説明します。

新施設稼働後のごみの搬入・搬出車両はどの程度増加するのですか？

新施設の稼働（平成25年）に伴う搬入車両は、可燃ごみ収集車両が1日平均約190台、最大で約310台を想定しています。また、焼却灰等の搬出車両は、1日平均4～5台を想定しています。（「最大約310台」とは、暮れからお正月にかけて、ごみの収集をしていないため、年明け初めての収集量は通常時の約2倍となることから、1月のうち2日程度はこの最大台数となる想定をしています。）

現在の組合では、不燃ごみや資源物の搬入車両が1日平均約120台、最大で約200台（上記と同理由）となっており、資源物の搬出車両が1日平均12台となっています。

このように、1日のごみ収集車両は、新施設の稼働により増加しますが、午前10時から11時（収集後1回目の搬入）のピーク時で約120台程度を想定しており、周辺道路の混雑時間帯とは相違するため、ごみ収集車両による交通渋滞は発生しないものと考えています。

種類	使用する車両	走行台数	備考
可燃ごみ収集車両	2～4トンパッカー車	平均約190台 最大約310台	新規
不燃ごみ・粗大ごみ ・資源物収集車両	2～4トンパッカー車・ 2トントラック	平均約120台 最大約200台	運行中（資源化施設）
焼却灰等の搬出車両	10トンダンプトラック （天蓋装置付き）・ 10トンタンクローリ車	平均4～5台	新規
資源物の搬出車両	10トントラック等	平均12台	運行中（資源化施設）

備考の新規とは、新施設の稼働後に増加する搬入・搬出台数です。